

ニュース・お知らせ

学校会員連絡協議会を開催  
(海外子女教育振興財団)

海外子女教育振興財団は十一月十五日、金沢工業大学大学院虎ノ門キャンパス(東京都港区)において、本財団の維持会員である帰国生受け入れ校の関係者を対象に「グローバル時代を切り開く能力の育成について」今後求められる学校を考える」をテーマに協議会を開催した。同会は各校の受け入れ体制をさらに魅力的なものにしていただくための情報交換の場として毎年、テーマを決めて行われている。四十六の学校や大学、企業から五十六人の参加があった。はじめに本財団の中村雅治理事長があいさつに立ち、日ごろの支援に感謝するとともに、「帰国子女」となる海外子女に関して、乳幼児の増加や、インターナショナルスクールや現地校のみに通う子どもたちが増えている現状を紹介した。続いて、東京大学大学院教育学研究科比較教育学コース准教授の額賀美紗子氏が「グローバル時代の能力観と能力形成——海外帰国子女教育の視点から」と題し

た講演を行った。自身が長年かけて行ってきた追跡調査等をもとに、グローバル時代に求められる能力について説明し、帰国生の能力伸長のためには「国の境界を越えて多様な文化的価値観が混在する教育空間の創出」が必要で、「日本社会にあるマイノリティーに目を向けさせる」ことも大切だと述べた。その後、三菱商事株式会社海外教育相談室長の友部政勝氏、文部科学省外国人児童生徒等教育支援プロジェクトオフィサーの近田由紀子氏、フレンズ帰国生母の会代表の永根真紀氏が加わり、パネルディスカッションが行われた。帰国生受け入れ校に対して「授業実践や受験等の情報の発信や収集を」「編入の受け入れを柔軟に」等の要望が出されたほか、友部氏は多くの海外駐在員を持つ企業の立場から「違う」ことの素晴らしさを意識できる多様性を尊重できる教育が必要」、多くの帰国子女や外国人の子どもに接してきた近田氏は「一人ひとりが「かけがえのない自分」を感じられるよう、校内の人たちとも積極的に協働することが大切」、永根氏は海外子女・帰国子女の親の立場から「子どもが持つ『乗り切る』『切り拓く』力を引き出す教育が望まれる」と述

べた。会場からは「グローバル人材」や「グローバルリーダー」の概念に関する意見等も聞かれ、挙手の絶えない協議会となった。

第六十七回グローバル化  
社会の教育研究会開催

十一月二十九日、六十七回目となる「グローバル化社会の教育研究会」が聖学院中学高等学校(東京都北区)で開かれ、教育関係者を中心に約二十人の参加があった。「トビタテ！留学JAPAN」：グローバルコンピテンスに向けて」をテーマに、文部科学省総合教育政策局教育改革・国際課で、高校生の留学を推進する「トビタテ！留学JAPAN」プロジェクトに取り組んでいる加藤賢一氏が話題提供を行った。「トビタテ！留学JAPAN」とは返済不要の奨学金や研修等を通して高校生や大学生の留学を支援する制度。加藤氏は、今後、将来を見通すことが困難な時代となることが予想されるなか、求められるグローバル人材になるためには「違いを楽しむ」「自分軸を確立する」「視座を高くして視野を広げる」「高い志を持つ」「アクションを

起こす」が必要で、生涯学び続けながら「未来は自分で創る」意識を持つことが大切だと述べた。会場からは「国内でもできる取り組みはある。アクションを起こしていきたい」等の声が聞かれた。

海外子女の作品が入賞——  
第37回「海とさかな」自由  
研究・作品コンクール(朝日  
新聞社・朝日学生新聞社)

同コンクールの目的は小学生を対象に、海やさかなに関して学び、子どもらしい発想で研究や創作に取り組んでもらうこと。今回は二万九一二点の応募があった。在外教育施設からの受賞は次の通り。  
○海外作品特別賞  
香港日本人学校(中国)  
小四 郭爾信

○学校・団体協力賞  
シラチャ日本人学校(タイ)  
香港日本人学校(中国)  
\*詳細はHPを参照のこと。  
URL <http://www.unitoskana.com>

新規ご入会 維持会員(11月末現在)

- ・武庫川女子大学附属中学校・高等学校
- ・関東学院六浦小学校